

## 3-11. 富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドライン推進協議会

(山梨県富士北麓地域)

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

当協議会は、富士山及び青木ヶ原樹海周辺地域における質の高いエコツーリズムの推進を目的として活動しており、近年、富士山及び富士北麓地域（特に自然公園法特別保護地区）においては、利用者の増加に伴う自然環境の破壊や、マナーの悪化等が問題となっている。

富士山の世界文化遺産登録を推進している状況の中で、将来に渡ってこの地域の自然環境を保護していくため、自然公園の適正利用のために制定したルールや、関係団体との連携について検討している。



### (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 1 月 23 日（水）～平成 25 年 1 月 25 日（金）
場 所	現地視察場所：富士風穴周辺 講演会場：山梨県立富士ビジターセンター
アドバイザー	株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役 松田 光輝氏
参加者	環境省、山梨県観光部観光資源課、 富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドライン推進協議会
スケジュール・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現地視察（青木ヶ原樹海富士風穴周辺地域他）</li> <li>・現地において課題となっている箇所の視察、説明</li> <li>●富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドライン協議会</li> <li>・知床におけるエコツーリズムの現状について（講演）</li> <li>・講師を交えての意見交換会（参加者全員）</li> </ul>



### (3) アドバイスの内容

- ・ 歩行者の管理方法
  - 人間に頼っているのが現状。実際にパトロールしているのは、環境省アクティブレンジャー、林野庁森林パトロールが1日4名、民間ガイドで対応している。
- ・ ガイドの認定方法
  - 現在試行錯誤をしているところ。ヒグマに関する安全管理をできるかがポイント。新規参入者も受け入れながら、ガイドの質も維持する仕組みづくりを模索している。
- ・ 団体の合意形成に関して、あり方検討委員会と利用適正協議会の関係
  - あり方検討委員会は環境省主導で発足。適正協議会については、民間側から利用調整地区にするか、エコツーリズム推進法にするかの適用をした場合の影響について提案し、行政機関間（環境省、道、町）で調整を行った。
- ・ 「みんながテーブルに着かざるを得ない状況」をどう作ったか
  - 環境省が主導。専門家を入れて地域を守って行くためにはどうしたら良いか、理詰めで議論を進め納得してもらった。事務手続きは、環境省が外部委託。
- ・ 高架木道における入場者の管理方法
  - 入口に管理小屋を建ててスタッフが常駐。レクチャーを行ってから出発。スタッフの人件費は利用料でまかなっている。現在は知床財団が運営（競争入札で落札）。基本的には、利用者負担で行いたい。行政の負担は限界がある。
- ・ 利用者の人数コントロール方法
  - 10分おきに50名ずつしか入れない、1日最大2000人程度。自ずと人数は決まってくる。いままで1日の上限を超えたことはない。駐車場のキャパシティで充分コントロールできていたが、ルールづくりをした。渋滞対策のため、環境省で駐車場を拡大予定。
- ・ 行政機関の参画促進の方法
  - 世界遺産登録の効果が大きい。世界遺産の効果は、地域を変えていく枠組みができることが最も大きい。富士山地域も期待できるのではないかと。富士山地域は世界遺産効果は実質ないと思う。一時的にはあるが。世界遺産登録によって、さまざまな人の意識が変わったり、枠組みが変わっていく、できていくことが最も大切なことではないか。
- ・ 富士山はさまざまな体制が乱立しているが、統一した体制づくりという意味で知床の例は参考になる。
  - 文化遺産であるので、環境省は中々動きにくいのでは。富士山では県の役割が大きくなると思う。
- ・ 外国人観光客への対応についてガイドの質を高める取組。
  - 知床では、まだ十分な対応がされていない。社会通念上、地元ガイドを付けないとおかしい位の雰囲気づくりが必要かと思う。



## (4) アドバイザー派遣の効果

---

### ●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 行政機関、民間団体の調整方法等について、知床の具体的な例示をしながら講演をしていただき大変参考になった。当協議会では初めての外部講師による講演だったため、各メンバーとも新鮮な意識で聴講ができた。
- ・ 当地域のさまざまな課題についても、具体的に行動をしていかなければ何も現状は変わらないという共通認識を持てたと感じた。



### ●今後の期待される効果

- ・ 富士北麓地域のエコツアーについては、統一した受付窓口がなく、来訪者がエコツアーの観光メニューや、その費用等の情報に接する機会が少ない現状である。今回の知床の例を参考にしながら、このような状況を改善し、利用者にエコツアー・メニューが提供され、安心して質の高いサービスを受けることができるような仕組づくりを検討していきたい。
- ・ また、そのような組織づくりを行い、各エコツアー団体の事業の振興を図るとともに、富士北麓地域の自然環境の保護につなげていきたい。
- ・ 世界遺産登録は新たな仕組づくりを行う、絶好の機会であるので、関係団体と協力しながら、来年度以降積極的に検討、推進を行いたい。

## (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### ●参考となった事項

- ・ 地域の組織づくりについて、行政、民間の両面からの意見をいただいた。各種調査等のデータに基づいた議論の構築や、民間団体と各行政機関の連携強化の必要性等大変参考になる内容であった。
- ・ また、ハード面の整備等については、知床の高架木道の設置の例等を通して、当地域の富士風穴周辺整備への応用も可能ではないかと感じた。歩道や駐車場の整備等についても可能性を探っていきたい。

### ●その他感想

- ・ 限られた時間の中では中々難しいかも知れないが、知床においてエコツアー団体が同じテーブルに着かざるを得ない状況を作り出した話等は、具体的な取組内容等について、もう一步踏み込んだ部分まで伺えた。また今回のアドバイス内容等を当地域にどのように当てはめていくのか等、そこまで議論を進めたかった。次回以降の協議会へ議論を継続していくことが重要だと思う。
- ・ また、講師と協議会参加者との懇親会的なものを企画し、より忌憚のない意見交換ができる場を設ければ良かったと感じた。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

---

株式会社知床ネイチャーオフィス 代表取締役 松田 光輝 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

#### (富士風穴周辺)

- ・ 平坦な地形のため子どもからお年寄りまで、気軽に奥深い森を体感することができるコースである。
- ・ 問題となっている道外れ、苔の生息等については把握することができなかったが、平坦な地形のため簡単に道から外れやすく植生への影響が起きやすい環境であることは推測できた。
- ・ その他、ここを散策するための問題点は、駐車スペースが限られている（正規には駐車場がない）ことである。離れた場所に駐車場は存在するが、道路幅が狭く車の往来が多い車道を歩かなければならない。安全上好ましくない状況である。

### ●アドバイス（講義等）の概要

- ・ 富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドライン協議会の会議に出席し、ここでお話しをさせていただいた。
  - ・ 利用人数の問題や苔をはじめ植生保護等が課題になっていたため、利用調整地区となっている知床五湖の事例を紹介した。
  - ・ 目指す目標は
    - 資源価値の向上のための利用方法
    - 資源価値を損なわないためのルール作り
    - 一般利用者やガイドへのルールの周知（自然ガイドは登録制にする等してルールの周知を図る）
    - 安全にかつ適正に利用するための施設整備（駐車場や富士風穴折口の整備）
    - モニタリング体制
    - 利害関係者が集まって協議をする仕組みづくり
- 等について知床での事例をもとに話をした。

### ●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 山梨県の職員の方がエコツアーガイドライン協議会を設置し、積極的にルール作り等を検討している。地元自治体も積極的に関わるべきであり、主体となるのが望ましいと思う。
- ・ ルール作りやルールの周知には時間もかかるので、焦らないで地道に着実に行って欲しいと思う。
- ・ ガイドが積極的に植生保護やモニタリングに関わる仕組みも必要なので、ガイドの登録制等も検討すべきと考えた。